

2年生 「何のやさい・くだもの？」

1. 授業の実践記録

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

【主体的に英語を使うためのデモンストレーションの工夫】

主体的にコミュニケーション活動に取り組めるよう、担任とALTによるデモンストレーションを行い、活動の流れを具体的に示した。デモンストレーションの中で児童に質問したり、問いかけたりすることを通して、会話の内容を理解し、自分の好きな野菜や果物を伝えたいという意欲が高まった姿が見られた。また、3ヒントクイズでは、英語のヒントを聞いたり、ジェスチャーヒントを取り入れたりし、児童が相談しながら答えを導き出す様子も見られた。ALTの追加のヒントを活用する中で、楽しみながら答えるなど、英語を使うことへの抵抗感が和らいでいる様子が見られた。



3 ヒントクイズ！

ヒント1：This fruit's taste is sweet.↵

ヒント2：This fruit has many balls.↵

ヒント3：This fruit's color is purple.↵



「Grape！」

(3) 英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実感するための工夫（仮説3）

【英語を使うことが楽しいと思える活動の工夫】

ビンゴゲームでは、活動に入る前にデモンストレーションを行ったり、ALTによる英語の発音を聞く回数を多く設定したりした。また、児童にも野菜や果物の発音をする場面を何回か設定することで、安心して楽しくゲームに取り組むことができた。このような工夫により、児童は英語を「学ぶもの」だけでなく「楽しむもの」として積極的に受け入れる姿が見られた。



【児童のふり返し】

- ・野菜と果物の言い方が分かりました。
- ・かぼちゃのことを「pumpkin」と言えました。
- ・今日は英語をいっぱい言えました。

2. 指導の結果と考察 ○成果 ●課題

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

○デモンストレーションや教師とのやり取りの場で、英語を繰り返し聞かせることで、十分なインプットの量を確保できたため、次の活動で児童が無理なく英語を使ってやり取りができていた。

●教師の指示や説明については、できるだけ日本語を使わず、クラスルームイングリッシュカードを活用しながら、簡単な英語を使って授業を進めていきたい。

(3) 英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実感するための工夫（仮説3）

○ビンゴゲームを取り入れたことで、児童が楽しく英語の発音やリズムに自然と慣れ親しむことができた。

●ウォーミングアップとして歌の活動を行っていたが、歌えるように練習するために、時間を割いてしまうことがある。また、曲選びについては、児童の興味と語彙力に合った、難易度がちょうどよい曲を選ぶことが難しく、課題と感じた。